

| 質問日 | 令和2年12月1日(火) | | 質問方式 | 分割方式 | | | |
|------------------------------|--|-----|---------|------|----|----|---------|
| 質問順位 | 4 | 会派名 | 自由民主党浜松 | 議席番号 | 29 | 氏名 | 倉田 清一 |
| 表 題 | 質 問 内 容 | | | | | | 答弁者の職名 |
| 1 防災・減災、国土強靱化の取り組みについて | <p>「浜松市国土強靱化地域計画」が策定されて2年目を迎えた。計画では、優先順位の高い15リスクシナリオと付随する141施策を重点化施策と位置づけるとともに、2017年を基準に、重点化施策の数値目標と年度を掲げている。また、国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」も最終年度を迎えている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> | | | | | | |
| (1) 「浜松市国土強靱化地域計画」の進捗状況等について | (1) 現状の進捗状況の評価と今後の推進に向けての考えを伺う。 | | | | | | 長田副市長 |
| (2) 緊急輸送路の確保について | <p>(2) 緊急輸送路は大規模災害発生時の避難、救急・救命活動や支援物資の輸送、復旧・復興活動に必須の道路であり、その途絶は優先順位の高いリスクシナリオに挙げられている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>ア 市管理橋梁のうち、緊急輸送路上にある橋長15メートル以上の橋梁及び緊急輸送路をまたぐ橋梁(113橋)の耐震化、並びに緊急輸送路の整備計画路線の進捗状況と今後の整備計画を伺う。</p> <p>イ 舘山寺街道の花川橋について耐震化等の検討状況と今後の計画、橋前後の緊急輸送路未整備区間の整備計画を伺う。</p> | | | | | | 高須土木部長 |
| (3) 避難所等の適切な運営について | <p>(3) 本年8月に浜松市避難所運営マニュアルが改訂され、避難所等でのウイルス感染症への対応方針が示された。避難所等でのクラスター発生を防ぐ運営体制を構築するため、指定避難所以外に、予備避難所や自治会集会所等、できるだけ多くの避難所を開設するとともに、緊急避難場所には、小・中学校に加え、予備避難所を開設するとしている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>ア 避難所及び緊急避難場所として、地域住民にとって身近な自治会集会所を利用・開設することは有効であると考えている。自治会集会所を自治会等の自主運営による避難所及び緊急避難場所として開設することについての考えを伺う。</p> <p>イ 市の緊急避難場所に位置づけられている和地協働センターへの太陽光発電及び蓄電池の整備、並びに駐車場拡張の考えを伺う。</p> <p>ウ 湖東団地内において、本年3月に土砂災害警戒区域等が追加指定され、湖東団地自治会の自主避難場所と</p> | | | | | | 小松危機管理監 |
| | | | | | | | 安間西区長 |
| | | | | | | | 〃 |

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

| 表 題 | 質 問 内 容 | 答弁者の職名 |
|---|--|----------|
| (4) 防災教育について | <p>している湖東西会館も土砂災害警戒区域内に含まれた。湖東団地は造成から50年程度が経過し住民も高齢化が進み、台風等の集中豪雨時の土砂災害を懸念している。</p> <p>そこで、今後の対応について、市の考えを伺う。</p> <p>(4) 本市は、一昨年の私の提案を受け、独自のマイ・タイムラインを作成し普及促進に努めているが、広く普及するまでには至っていない。一方、本市は浜松市版防災ノートを作成し、自助・共助の大切さの学び等に活用するとともに、防災講座や講演会の開催など、学校の防災教育に努めている。</p> <p>そこで、学校の防災教育を通じて、マイ・タイムラインのさらなる普及啓発に努める必要があると考えるが、市の考えを伺う。</p> | 伊熊学校教育部長 |
| <p>2 都市計画道路の見直しについて</p> <p>(1) 第2次見直し計画について</p> <p>(2) (都)植松和地線の見直しについて</p> | <p>本市の都市計画道路は平成22年3月31日時点で156路線、総延長約485キロメートルあった。近年における少子高齢化等、社会経済情勢の変化への対応、低い整備率等の課題を検証した結果、第1次見直しで6路線、約7キロメートルを廃止し、第2次見直し計画では、未整備区間約148キロメートルのうち約67キロメートルを存続、約81キロメートルを廃止候補とした。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 第2次浜松市都市計画道路見直し計画の考え方を伺う。</p> <p>(2) 総合交通計画では、放射5号線として(主)館山寺鹿谷線の西山町～和地町区間を位置づけているが、本来、放射5号線には(都)植松和地線が位置づけられるべきと考える。現道を主要幹線道路に位置づけた理由、また、見直しに当たり、(都)植松和地線(西山町～浜松環状線区間)の機能検証結果、及び今後の道路ネットワークについての考えを伺う。</p> | 山本技術統括監 |
| <p>3 浜松市営住宅ストック総合活用計画について</p> <p>(1) 10年間の評価と今後の取組について</p> <p>(2) 市営住宅湖東団地の再生計画について</p> | <p>平成23年に策定した浜松市営住宅ストック総合活用計画は、基本方針に基づき、建て替え、改善、維持保全、用途廃止の取組を進め、今年度末で計画期間の10年が経過する。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 市営住宅ストック総合活用計画による10年間の実績と評価、及び次期計画の策定に当たり課題と取組方針を伺う。</p> <p>(2) 市営住宅湖東団地は昭和40年代後半に建設され、老朽化が著しく、入居者数も減少するとともに、市営住宅ストック総合活用計画に基づく再生が計画されている。</p> <p>そこで、令和元年度に行った湖東団地再生に関する民間活力導入可能性調査業務の成果と今後の再生に向け</p> | 大村都市整備部長 |

| 表 題 | 質 問 内 容 | 答弁者の職名 |
|---|---|--------|
| | た取組を伺う。 | |
| <p>4 建設業の働き方改革について</p> <p>(1) 発注者としての市の取組について</p> <p>(2) 建設工事の情報共有化システムについて</p> | <p>建設業は、社会資本整備の担い手であると同時に、相次ぐ災害を受ける中で地域の「守り手」として期待されている。国は、新・担い手3法の一体的改正で建設業の担い手の中長期的な育成・確保のための基本理念や具体的措置を規定し、働き方改革の推進と情報通信技術の活用等による生産性向上を発注者の責務とした。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 建設業の担い手の中長期的な育成・確保のための本市の取組について伺う。</p> <p>(2) 情報通信技術の活用の一つとして、建設工事の情報共有システムの活用が国・県で始まっている。</p> <p>昨年、本市の公共工事における情報共有システムの導入について市の見解を伺い、財務部長からは、情報共有システムの導入は有効な手段であることからモデル工事で実証実験を行い、効果や課題の検証を踏まえ、導入の道筋を確実につけていく、との答弁があった。</p> <p>そこで、現在までの実証実験の状況と効果や課題の検証、今後の導入の道筋を伺う。</p> | 森本財務部長 |
| <p>5 新たな工場用地の確保について</p> | <p>本市は、工場用地を開発・整備するなど積極的に企業誘致に取り組んできた。昨年、第三都田地区工場用地の完売が近づく中、新たな工場用地の確保についての考えを伺い、産業部長からは、戦略的な企業誘致活動を推進するためには工場用地の迅速な確保が必要であることから市内全域を対象として、企業からの要望が多い高速道路への利便性等の諸条件を考慮し、評価の高い候補地については、工場用地可能性調査を実施し、公共及び民間の開発候補地を複数選出していく、との答弁があった。</p> <p>そこで、工場用地開発可能性調査の結果、新たな工場用地確保の見通しと候補地の公表について伺う。</p> | 藤野産業部長 |